



恐竜絶滅に学ぶ

朝、校区を回っていると、たくさんの子どもが声をかけてくれます。

先日、ある子どもから「なぜ恐竜は絶滅したの？」と尋ねられました。私はとっさに「大きな隕石が地球に衝突したからだよ」と答えましたが、実はそれだけが理由とは言い切れません。

約6500万年前の隕石落下は、当時の生物に甚大な影響を与えました。しかし、恐竜が絶滅した本当の理由は、その後に起きた急激な環境変化に適応できなかったことにある、と考えられています。長い間、生物界の頂点に立ち、大型化しきった恐竜は、大きく変わった環境の中で自らを変えることができなかったのです。

「変化に対応できない生物は滅ぶ」——この話は、私たちに多くの示唆を与えてくれます。

私自身の感覚では、ここ数年で子どもたちの持つ感覚が大きく変わってきたように思います。それは子ども自身が急に変わったというよりも、社会の変化が子どもたちに強く影響している結果ではないでしょうか。社会の変化は今後さらに加速し、特に2030年までの数年間で、これまでの価値観を大きく揺さぶるような出来事が起こる可能性もあります。

学校、なかでも教員がその変化に対応できなければ、教育の現場そのものが立ち行かなくなる——私は個人的に、そんな危機感を抱いています。とはいえ、「どう変わるのが正解か」という答えはありません。変えた結果、今より悪くなることもあり得ます。これまでの慣例を変えることには、少なからず痛みが伴うからです。それでも、変えるために動き出さなければならない時期に来ていると感じています。

学校では、本年度の取組を振り返り、次年度の方針を検討する時期に入りました。皆さまからいただいた学校アンケートのご意見も、貴重な声として大切に参考にさせていただきます。

ただし、どれほど社会や学校の在り方が変わっても、地域の皆さま、保護者の皆さまと協力して子どもたちを育てていくことの大切さは変わりません。これからも、どうか変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



1月は、全校でペースランニングに取り組んできました。それぞれに目標を決めて、朝の時間だけでなく、寒さに負けずに、休み時間も走る子どもたちの姿を見ることができました。



2年生が「地域のお店たんけん」をしました。たくさんのお店の方や保護者に協力していただきました。行く前からとても子どもたちは楽しみにしていて、笑顔いっぱいでした。



見守り隊の方が、朝の見守り活動の後、1年生の子どもたちに「こま回し」を教えてくださいました。多くの子どもたちが自分で回すことができるようになりました。



なかよし作品展で「すばるホール」に展示されたさくら学級のみんなの力作「おかしの家」が、今も校長室の前に置いています。その迫力に、通りかかる人みんなの注目の的です。

LiD/APD（聞き取り困難症／聴覚情報処理障がい）について

APD（聴覚情報処理障がい）とは、「聞こえている」のに、「聞き取れない」、「聞き間違いが多い」など、音声をこぼとして聞き取るのが困難な症状を指します。

通常の聴力検査では異常が発見されないこの症状は、耳から入った音の情報を脳で処理して理解する際に、なんらかの障がいが生じる状態だと考えられています。この状態を表す言葉として、海外ではListening difficulties：LiD（聞き取り困難症）という言葉が使用されるようになってきました。

とくに、雑音がある環境や、複数の人が同時に話をするときに聞き取れないことが多いです。これまではあまり周知されていませんでしたが、近年この症状を持っている人は少なくないことがわかってきました。

LiD/APDは治療で治るものではありませんが、学校で支障なく生活するために「先生の声が聞き取りやすい席にしよう。」「板書をまめにしたり、視覚的な資料を多く使う授業の工夫」など、できるサポートがあります。もし、お子様のことで、気になることがありましたら、ご相談下さい。

